様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	生活・健康系コース（技術・工業・情報）／伊藤　陽介

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

①授業内容においては，学んだ内容と学校教育との関連性を明確にする。
②授業方法においては，実験的・体験的な内容を充実させ，教育実践力がつくように配慮する。
③成績評価においては，客観性の高い評価規準に基づき実施する。

2．点検・評価

①については，学んだ内容と学校教育の関連性を明確になるように配慮した授業を展開した。
②については，学生自らが実験し体験する内容を重視した授業を行い，教員実践力がつくように配慮した。
③については，評価基準を明示し客観性の高い成績評価を行った。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育･学生生活支援

1．目標･計画

①教科専門の内容と学校教育との関連性を明確にする授業を行う。
②実習を含む授業では，受講生が具体的にものづくりを体験し，自ら実践できるように配慮する。
③研究指導している学生に対しては，研究指導に加え就職支援活動も行う。
④学生から相談があれば随時対応し，親身になって相談できる教員を目指す。

2．点検･評価

①については，教科専門の授業において専門的な内容と学校教育との関連性を解説するとともに教材化の手法を具体的に示した。
②については，実習時間を十分確保し，学生自らがものづくりを体験できるように配慮した。
③については，研究指導に加えキャリア指導を行い，学校教員を志望していた研究指導学生の全員が教員採用試験に合格した。
④については，学生から相談があれば親身になって対応し，信頼される教員となるように心がけた。

Ⅱ－2．研究

1．目標･計画

①情報技術および情報技術教育に関する専門的な研究を推進する。
②研究等で得られた成果をまとめ，学術雑誌等に論文投稿する。
③積極的に学術講演会や研究会等に参加し，研究成果を公表する。
④採択済みの学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））による研究を計画に沿って実施する。

2．点検･評価

①については，主に地球観測技術と計測･制御技術に関する研究及びそれらの教育利用に取り組み，科学研究費補助金による研究，宇宙航空研究開発機構との共同研究，並びに，連合研究科共同研究プロジェクトを遂行した。
②については，論文2編が掲載され，分担執筆したリモートセンシングに関する英文教科書が出版された。
③については，国際会議2件，国内学会発表15件を行い積極的に研究成果を公表した。
④については，平成25年度科学研究費補助金（基盤研究（C））が継続（研究代表者）となり，その研究計画に沿って実施した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

①情報基盤センター所長として，本学の運営に貢献する。
②兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科生活・健康系教育連合講座副代表者として，本学の運営に貢献する。
③各種委員会委員として，本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

①については，情報基盤センター所長として，本学の情報基盤を維持・管理・運営するとともに，第6期情報基盤コンピュータシステムを導入した。
②については，生活・健康系教育連合講座副代表者としての各種業務を行った。
③については，知的財産室副室長，施設整備委員会委員，就職支援委員会委員として本学の運営に貢献するとともに，四国産学連携イノベーション共同推進機構の設置準備に関わり，その運営委員を担当した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①附属中学校教員等と協力して，技術教育分野における共同研究を行う。(附属学校)
②学校教員を対象とする研修等を通して，大学における研究活動で得られた成果を社会に還元する。(社会貢献)

2. 点検・評価

①については，執筆した中学校の技術教育用テキスト(148頁)が附属中学校の授業で利用された。
②については，(独)教員研修センターから本学に委託された「平成25年度産業・情報技術等指導者養成研修」の講師を担当し，本学における教育研究活動で得られた成果を学校教員に還元できた。また，社会との連携活動では，日本リモートセンシング学会理事(研究委員会委員長)，日本産業技術教育学会情報分科会編集委員として学会活動に貢献した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

連合大学院博士課程及び修士課程大学院生(本コース在籍大学院生数の30%)に対して研究指導を行うとともに，情報基盤センター所長，知的財産室副室長，連合大学院生活・健康系教育連合講座副代表者として本学の運営に特に貢献した。さらに，財団法人eーとくしま推進財団の評議員，日本リモートセンシング学会の理事を担当し，教科書（英文）の出版に関わる等，当該専門分野において本学の知名度を上げることができた。また，大学院生確保のための広報活動として大学等5か所を訪問し，本コースへの進学希望者を募ることができた。